

生れ代つた程風情深くなるのも、實に子供の賜であります。夫婦の争ひ、時々には子供から起ることもありますが、然し夫婦の結合を一層強固にするものは子供であります。實に統計上から見ましても、子供を持つたものに犯罪者が少いといふことは事實であります。

かく考へ来りますれば、古人が子實といつたことも、まことに理由のあること、思はれます。室の美ならんよりも子等の嬉笑なるかなといふ言葉もありませんが、吾々は、子供を持つて、たゞ玩具の様に可愛がる許りではなく、子供から學び得る凡べての賜に留意して、かくの如き子實を得たることを深く感謝すると同時に、不幸にしてこれを有せざる人々に向つて、深き同情を表せねばならぬと思ひます。

忙中閑語

天

紅

▲高き學校を卒業したりとて、高き教育を受けたりとはいふべからず、高き學問と高き教育とは自ら異なり、學問とは、教育の方便の一なり、學問を授くる學校、必らずしも教育を施す學校と言ふを得ず、今の婦人にして、高き學校に入りて高き學問を受けたるもの、漸く多からんとす、然して、實際の社交上に於て、往々非難を受くる所以のものは、要するに、學問のみを修めて、教育を施されざるに由る。

▲某侯爵夫人、曾て、其親戚に妻を娶りやらんとする時、一切學校出の娘を拒絶せり、其理由に曰く、

聊かの學問をなして、徒らに氣位のみ高く、常識を缺けるが爲めに、社交の實務に通ぜざるが、之等の  
 人々に多ければなりと。

▲笑ふ門には福來るといふ、然したゞ笑つて居たればとて、何の因縁もなくして福の飛び込み來るもの  
 にはあらず、これは、常に笑ひ顔をして居れば、心自ら爽快きて、愉快になる、これが福なりといふ  
 ことなり。人は可笑き故に笑ふにあらず、笑ふ故に可笑しきなりとは、近き頃ある學者の言ひ出でたる  
 ことなりとか、されば、平素、嬉々として、笑顔をして居れば、心も常に嬉々として愉快ならぬことな  
 き道理なり。

▲夫と同じく、何も苦しき事もなきに、故らに澁面造り、苦り切つて居る時は、心も矢張り苦々しく不  
 平不快を感ずるに至るべし、心に喜びあれば顔色爽快に、不平あれば顔色澁る、これ最も睹易きことな  
 れども、顔附よりして心持を變ずることも亦疑ふべからず。

▲子持てる親、子を育つる教師は、殊に顔付を爽快にして子供に接すること殊に肝要なり。顔附を爽快  
 にし居れば心も自ら爽快になりて温なる感情もて子供に對することを得べし。由來感情は傳染的なり、  
 爽快なる人に對すれば己も自ら爽快になり、沈鬱なる人に對へば己も亦沈鬱となる、子供の感情を圓滿  
 ならしめんとする時は、之を育つる人自ら、圓滿温和なる感情もて、接せざるべからざるなり。

▲ふさわしからぬもの、フロックコートに足駄、丸鬚に鰻茶袴。